



特定非営利活動法人

a cup of water

私達はキリスト教精神に基づき、  
世界の困難な状況にある子ども達を支援する NPO です。



少しずつ暖かくなり、春本番が待ち遠しい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？  
いつも a cup of water をとおして、タイ・カンボジアの子ども達をご支援下さり、  
本当にありがとうございます。

皆様のご支援によって、継続的に子ども達をサポートできることに深く感謝しています。  
元気に成長する子ども達の笑顔を見れることは、大きな喜びですね。

先日、支援の必要性と私たちの使命を改めて実感する下記のお便りが届きました。

小さな働きでも継続することの意味と力を信じて前進していきたいですね。



～現地からのお便り～

昨年末、お米の倉庫が空になりかけて、いよいよ新米を購入する時期に来ていました。しかし、銀行の残高は無いに等しかったので、子供達、スタッフ、友人たちで必死に祈りました。その後、お米17トン分の金額が与えられ、お米の倉庫はいっぱいになり、この1年間の準備が出来ました。

(← 写真は食前のお祈りをする男の子)

facebook

a cup of water が Facebook を始めました！  
現地からの届きたてのニュースや子ども達の  
写真、動画もUPしていきます。子ども達を身近に  
感じていただけるよう工夫していきますので、  
皆さん、「いいね！」お願いします☆

<https://www.facebook.com/acupofwater.friend>

〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井4丁目23-24  
ニューライフキリスト教会内

TEL&FAX 075-962-4249

E-mail [info@acupofwater.jpn.org](mailto:info@acupofwater.jpn.org)

HP <http://acupofwater.jpn.org>

# ハッピーホーム訪問レポート！

福原 みどりさん 写真中央

この度の訪問は、出発約6か月前から準備をしました。a cup of water としてカンボジアの子供たちに何が出来るのか、色々なアイデアを出し合って練習しました。準備したものは、歌、日本語レッスン、バルーン、お菓子作り、ゲーム、カンボジア語の読み聞かせなど。子ども達へのたくさんのキャンディも用意出来ました。



現地についていよいよ子供たちとの再会。会員の皆様の気持ちと祈りも一緒に、再会の喜びをかみしめました。確かに、祈りは答えられており、彼らはしっかりと成長していました。それも、とても面白い個性をもって！ある子は、よく考え、ある子は人のことを良く観察し、ある子は魚釣りがずば抜けていて、ある子は釣った魚をちゃんとさばいていく。ある子は何とも言えない踊りをし、ある子は庭で見つけたヘビをも食べようとするユニークさ！

しかし、カンボジアハッピーホームでは、少なくとも5~6人は必要なスタッフの人数のところ、主だったスタッフは3人でした。早くスタッフが増えますように。



スラムにあるプレスクールは、大雨の為洪水ですすでに2週間閉鎖されていました。土地が川の近くのためだそうです。スクール監督責任者カンボジア人のジーンさん(左写真)と夕食を共にし、よい交流が持てました。34才のジーンさんは300人に増えたこのプレスクールの運営と、地域の教会のまとめ役もされているそうです。冗談が大好きなジーンさん。彼のこれからの導きの為にも祈らずにおれません。



ポイペトの町のバイクの音やけたたましいクラクションの音、人が無造作に行きかう風景が、まだ頭に残っています。そこでは皆さん一生懸命、必死に生きていました。



ハッピーホーム37人の子供たちと過ごした日々は本当に貴重なものでした。親を知らず、見放された子供たちがすくすく育つ環境があることは何と素晴らしいことでしょう。また、この子供たちに会いたいと願う方がおられたら、訪問したいと思います。

## ハッピーホーム訪問レポート！

山川 直子さん

今回の旅で感じたのはカンボジアに必要なのはやはり教育だなと思いました。

タイからカンボジアに入ると、急に路上にごみがあふれている風景を多く見かけます。

はっきりと理由はわかりませんが、ごみを捨てる事を教えられていないからそのまま捨ててしまうようです。また、教育を受けられないと仕事はあまりなく、タイから物資を運ぶような仕事しかないと聞きました。炎天下の下、荷車にトラック並みの荷物を一人で運ぶ男性を多く見かけました。



厳しい労働条件にもかかわらず、安い賃金しか得られません。生活苦や忙しさのため子どもを育てるのもままなりません。その子どもも学校に行かずに教育を受けられないと、貧困の連鎖の中に入ってしまう。カンボジアでは小学校までしか行けない子どもが多いです。聞くとところ高校まで行っていたら就職は出来るとのことでしたので、カンボジアの子ども達が高校まで学校に行けるようになってほしいと思います。

ハッピーホームの子ども達は希望があれば大学まで行けますが、プロジェクトとして運営されているスラムの中のプレスクールは、今の所4年生までしかなくその先は保障されていません。スラムに住む子ども達もなんとか高校まで通えるサポート、モデルが出来ればなと感じました。



2年前にカンボジアに来た時にはスラムを訪問して、ごみの中で暮らしている状況にとてもショックを受け 生まれた国や環境によって可能性がせばまっているこの状況を何とかしなくてはと思っていましたが、この子ども達もここに来た私達にも必ず意味があって生まれてきたのだと今思うようになりました。カンボジアで生まれた人達、日本で生まれた人達、家庭環境によっても経験することはひとりひとり違いますが、きっと必要な体験が与えられていると思います。

ホームの子ども達は両親とも亡くなっていて、原因もドラッグや病気や貧困等日本では考えられないことですが、その背景を受け入れて生きる事でそれをバネにして生きる強さを身につけていると思います。もしかすると 13 歳ぐらいからの自尊心が芽生えてくる頃、自分自身のバックグラウンドや過去と向き合い一番精神的にしんどい時期なのかなと思いましたが、全て受け入れ認めながら新しい自分を見つけていってほしいと思いました。



カラヤさん サドゥディーさん

今回お世話になったポイペトホームのスタッフ、サドゥディーさんとカラヤさんには本当に良くして頂きました。ハッピーホーム出身のスタッフの方が親代わりとなって子ども達と共に過ごすということは素晴らしい事だと思っています。大変な家庭環境や苦勞した過去をすでに乗り越えて今輝いて仕事をされている方が先頭に立っているのは子ども達にとってもとても心強い存在だと思います。

ハッピーホームのスタッフの方々もプレスクールの校長先生ジーンさんも訪問した私立学校の先生も自分のこどもだと思って教育、育てていると口を揃えておっしゃっていたのが心に残りました。



「子ども達の心の傷、これが一番難しいです・・・」  
ハッピーホームのスタッフが私たちに声をそろえて言いました。食べ物や着る物が与えられたとしても、人はそれだけでは生きていけない。  
孤児として育った子ども達は、心の奥底に大きな傷を抱えていることが多いのです。「子ども達の心が癒されますように・・・」ツアーを通して、そう強く願いました。



ここに、ハッピーホームで育った「ファンさん」という女性のお話を紹介します。(左写真)

「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」この聖書の言葉は、私の人生でとても現実のものとなっています。

私の名前はファンです。私はMMFチェンライのもととなった孤児院で6歳から20歳まで計14年間過ごしました。ここで私はとてもよく育てて頂きました。食べるものや、決して裕福ではないけれど、欠くものはありませんでした。ローズ・マルチネスさんが良い母親として、心も身体も面倒を見て下さったことを神に感謝します。たくさんの友人もいました。他の人と比べて責任感もある方でした。学校でも良い成績でした。自分自身でしっかり生きてきたつもりでした。

しかし、心の中では全く自分には価値がないと感じていました。それは自分が孤児であり、低く見られ、他の人と比べ平等ではないという思いでした。ある日、ローズさんは私をチェンライの青年キャンプに連れて行ってくださいました。そのキャンプのテーマは、「セルフイメージ」、自分自身にどう確信を持つかというものでした。そこで沢山のことを聞き、私は感動しました。私達は自分自身を神様が見ているように見ることができるということを学びました。なぜなら、私達の人生は神様ご自身がスタートして下さったからです。毎日、色々な話を聞いて、最後の夜、先生は言われました。

「あなたは自分の人生に、神様の計画を招き入れたいですか？神様に話したいことはありますか？自由に話しかけて下さい。」私は疑問に思うことを神に打ち明けました。「神様、私はあなたが無償の愛をもっていることを聞きました。どうかその愛を私を感じられるようにして下さい。」そう祈っている時、神様に触れられて、私は泣きました。なぜ泣き出したのか、その涙は自分がいやで泣いたのではありません。

その時、神様は私を大切な一人として選んで下さり、自分は価値のある者だとわかったのです。何を沢山もっているか、何をしているかではなく、私は誰に属しているかだったのです。今日も、あの時の思いは変わりません。私は神様のもの、神様は私のものなのです。

## フィリピン支援募金の感謝とご報告

皆様のお祈りとご献金をありがとうございました！

皆様のご協力により、 ¥82,637 の募金が集まりました。

a cup of water ではフィリピンでの活動に実績のある団体を通して、皆様のご支援を現地へお届けしました。募金は食糧や水、家建設のための資材や仮校舎の建設のために用いられています。ご支援を本当にありがとうございました。

より詳しい報告、写真はこちらをご覧ください。→ <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>



2013年11月8日、超大型の台風30号（ハイエン）は、最大瞬間風速90メートルでフィリピン中部の島を横断し、フィリピン史上最大級の甚大な被害を出しました。

## a cup of water ファミリーの輪が広がっています♪

a cup of water の会員、支援下さる方の輪が広がっています。

「タイ・カンボジアの子ども達をサポートしたい」。その思い一つで多くの方とつながれることは本当に素敵なことですね。私も高校卒業以来会っていなかった友達と、「タイ・カンボジアの子ども支援」のことがきっかけで再会ができました。アクセサリーのデザイン制作をしている友達なのですが、売上の10%を定期的に寄附してくれています。神戸市灘区にある大石教会の皆様も教会をあげてサポート下さっています。

2013年12月には教会でスライドを使いながら、カンボジア訪問報告をさせていただきました。ここには色々な世代の支援者の方々がおられ、子供達を見守って下さっています。



### アジア教会婦人会議 講演のご報告

昨年11月1日、アジア教会婦人会議（ACWC）日本委員会の一泊研修会で、タイ、カンボジアの子ども達について、またハッピーホームの働きについて講演をさせていただきました。ACWCはアジア 19ヶ国のプロテスタントの教会女性たちによる草の根運動です。

日本福音ルーテル大阪教会を会場に約300名の方があつまり、礼拝、聖書の学び、講演のひとときを持ちました。教会教派を超えて、集まった方々が心をひとつにし、アジアの貧しい国の人々のために祈り、学び、心を向ける、とても有意義な一日でした。毎年開催されているとのことですので、来年以降も毎年参加したいと思いました。タイ・カンボジアで出会った子ども達のお話を多くの方と分かちあうことができたのは大きな喜びでした。このような機会を与えてくださり、本当に感謝です。



# a cup of water

ご支援ありがとうございます！

## お知らせ

今年の8月にハッピーホームを訪ねる予定です。  
今回はタイです！ 希望の方は福原みどりさんまでお問い合わせ下さい。

メールアドレス : [f-midon74@ezweb.ne.jp](mailto:f-midon74@ezweb.ne.jp)